

## 酒井さん

酒井さんの姿が見えない

酒井さんが入院しているらしい

酒井さんが痩せたね

このところそんな声が聞こえていた

ところが今度は

酒井さんが亡くなったという

いつも元気で

微笑を絶やさなかつたあなた

祭の時には揺れる神輿の上で

若若しい顔が光っていた

神輿の下では

じつとその重みに耐えていたあなた

あなたは いつだつて

グリーンヒルの四季と一緒に動いていた

酒井さんという名前とグリーンヒルとは

いつもダブって聞こえていた

あなたが描いた夏祭りの入場門は

今でもグリーンヒルの入場門だ

今年はあるの門から神輿に乗って

あなたの姿は現れないのか

そんなに寂しい事があるだろうか

青葉がしげる頃になると

公園の方で太鼓の音が聞こえてくる

あ、酒井さんだ

子供らに伝統的な日本の音を教えている

優しく厳しいあなたの語り口が

今も甦ってくる

やぐらの上で汗だくで太鼓を叩いていたあなた

今年はやぐらの上にあなたの姿はない

そんな寂しい事があるだろうか

もう三十年近く経つ私たちの団地

苦勞しながら育つてきた私たちの団地

自治会の会議で

管理組合の会議で

祭の会議で

いつもあなたの姿があつた

忘年会で見事に落語を語るあなた

プロと並んでも引けを取らない語り口

あの座布団の上に

今年はおなたの姿が見られない

そんな寂しい事があるだろうか

でも、酒井さん

これからも毎年夏が来て

青空に白い雲が流れる頃になると

あなたの事をきつと誰もが思い出す

太鼓の音と共に

あなたの事を思い出すだろう

あなたと共に動いていたグリーンヒルは

幾つになっても

あなたを忘れないだろう

さあ、酒井さん

もう神輿を降りて

鉢巻をはずし汗を拭つて

疲れ過ぎた手足をゆつくり伸ばして

安らかにお休み下さい

二〇〇三年五月一四日